

令和3年度 狛江市立学校第三者評価委員会 報告書 概要版

1 狛江市立学校第三者評価委員会委員

【委員】

委員長 帝京大学大学院 教授	坂本 和良
委員 一般財団法人 教育調査研究所 研究部長	大橋 明
委員 学校法人清和学園 子鹿幼稚園 園長	豊島 秀臣
委員 横浜 DeNA ベイスターズ 元監督	中畑 清

【事務局】

狛江市教育委員会教育部理事兼指導室長	小嶺 大進
狛江市教育委員会教育部指導室統括指導主事	角田 恒一

2 第三者評価実施概要

平成24年度までは全小中学校を毎年評価対象校としていたが、平成25年度から全校を中学校区によって2グループに分け、5校ずつを隔年で評価することにより、短期的な評価に加え、2年間のスパンで中期的な評価を実施することとした。

評価を焦点化するために、「学力向上の視点」「特色ある教育活動の視点」からそれぞれ評価の観点を学校ごとに決定し、その観点到って重点的に評価を進めた。

これまで評価委員による学校訪問を年2回実施し、1回目に評価の観点における各校の課題の確認、2回目にその課題に対する取り組み状況や改善内容を確認することで、より学校の実態に沿った評価を推進した。

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえ、直接の学校訪問ではなく、ライブ配信の方法を取り入れ、学校と評価委員がオンラインで直接質疑応答や授業観察を行う形式で実施し、オンラインでの学校訪問を基に評価票の作成を依頼した。

3 令和3年度評価対象校及び評価の観点

学校名	観点①	観点②
狛江第一小学校	学力向上 (ICT機器の活用)	ESDの取り組み
狛江第五小学校	ICTを活用した授業 (反転学習)	SDGsの取り組み
緑野小学校	学力向上	体力向上
狛江第一中学校	「カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れた教育活動」による学力向上	多様な生徒を誰一人として取り残すことのない学びの保障
狛江第四中学校	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	ICT機器の活用

4 狛江市立学校第三者評価委員会の経過

- (1) 学校説明、学校経営方針説明、授業観察のオンライン学校訪問実施
令和3年6月22日(火)～令和3年7月12日(月)
- (2) 第1回訪問時の指摘事項の改善状況確認のオンライン学校訪問実施
令和4年1月24日(月)～令和4年2月21日(月)
- (3) 報告書検討会
令和4年3月30日(水)

5 総括

(1) 学校経営の状況について

- 校長の学校経営方針を教職員に浸透させるために、学校経営方針の項目と対応させて教職員の学校評価を行った上で、保護者、児童のアンケートとのギャップを検証する取り組みは非常に有効だと感じた。
- 地域との連携を重視していることは大切なことだと考える。令和4年度から実施される「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働本部」を両輪として活用し、さらに効率的に進めてほしい。
- 第一回の指摘事項について校長自ら改善策を検討し次年度の教育計画へ反映させようとしていることが理解できた。コロナ対応でたいへんな状況ではあるが、学校改善への前向きな取り組みが確認できて良かった。
- SDGs、ESDの取り組みは持続できなければ意味がない。意識の変化から行動の変化へと継続的な指導を期待したい。

(2) 教育委員会の支援

- 一定数の児童生徒が登校できず、自宅での学習を余儀なくされていることについて、コロナの影響だけではなく、不登校の児童も考えられる。オンラインを活用した学習が定着しつつあるようなので、登校できない児童生徒への支援について推進してほしい。
- 若手教員の増加は全都的な課題でもあるので、育成上の差が出ると今後のさらなる課題となる心配がある。また、若手教員研修終了後のフォローとして、改まった研修の場だけではなく、日頃の心配事や悩み等を気軽に相談したり伝え合ったりする場や時間ができないか、各校に働きかけてほしい。
- 次年度から導入されるコミュニティ・スクールについて、新しい取り組みを始めるに当たっては当然トラブルも発生するだろう。できるだけ支援を手厚くしてほしい。
- ICT機器を浸透させるには日々の技術的な支援も必要となる。ICT支援員等の活用を積極的に行い、現場の要望に答えられる体制づくりのためにも継続的な予算措置をお願いしたい。

6 各学校における主な評価

【狛江第一小学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「学校の教育目標」に「学びあう子」を掲げ、学校経営の基本的な考え方では「子供の持つ可能性を引き出すことのできる教師」を掲げ、「知識注入型、教師主導型の授業から脱却できないのでは、その使命の実現は難しい」と記されており、全くその通りだと賛同する。 ◆ ESD教育で育成しようとする資質・能力を明確にして、各教科等で育成しようとする資質・能力との関連を示したものにすべきではないかと考える。学習指導要領は、コンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースに転換されていることにも十分注目してほしい。
【狛江第五小学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 授業で活用するアプリが豊富で、授業者も児童も操作に慣れていることから、全校を上げてICT機器を活用した授業の実践に力を入れていることが十分に確認できた。 ◆ SDGsは単に知識として獲得するだけでなく、そのことによって行動が変容することが大切である。児童や教員の行動変容についても、その具体的な姿を發揮する機会を設定する必要がある。
【緑野小学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 本来の伝え合いになるまでには時間が必要なかもしれない。交流の場面では、相手の発言に対し何か一言感想なり自分の意見を言うような工夫を取り入れるなど、これからの研究に期待したい。 ◆ 児童がタブレットを使いこなしている事に感心した。特に、データを共有したり、互いに転送し合ったりすることに精通している点が驚きである。児童が自分たちで撮った動画を使って説明しているので説得力がある。児童自身が課題意識をもって取り組んだことなので、申し分ないと思う。
【狛江第一中学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ カリキュラム・マネジメントはともすれば「管理職や教務主任だけがやればよい」と、とられがちだが、日々の各教員の教科等の指導においても行う必要があるなど、様々なレベルで行っていくことが求められる。 ◆ YouTubeを活用したコンテンツを作成したり、放課後だけでなく授業前にも個人指導をしたりするなど、どこにいても学習できるような、個に応じた学習環境が手厚く整えられているとのこと。誰一人として取り残さないという学校としての強い意思を感じた。
【狛江第四中学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「実力ある専門家」の育成に関しては、授業研究を充実すべきだと考える。外部から中学校の授業に精通した講師を招き、校内の全教員が授業を行い、全教員で指導を受けることが必要である。授業を改善することで、校長の学校経営計画が実現すると考える。 ◆ 調べ学習でネット上の情報にアクセスすることにも慣れているようだが、引用だけでなく自分の意見を必ず入れるなど、コピーアンドペーストのテクニックだけの上達にならないよう配慮してほしい。